

1. 件名：泊発電所3号炉の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する面談

2. 日時：令和5年9月27日(水) 15時00分～15時40分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口上席安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、井清係員

北海道電力株式会社：松村執行役員 他10名

三菱重工業株式会社 2名

(このうち1名はテレビ会議システムによる出席)

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・泊発電所3号炉 基準津波「地震に伴う津波と地震以外の要因に伴う津波の組合せ」のうち水位下降側に係る検討状況
- ・泊発電所3号炉 基準津波に関するコメント回答（地震に伴う津波と地震以外の要因に伴う津波の組合せ）（水位下降側の検討状況について）

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	規制庁谷です。面談を始めます今日の面談の案件としましては、泊発電所 3 号炉の基準津波なんですけれども、
0:00:12	基本的には検討状況ということで、A4 の縦のペーパーと、あとパワーポイントの
0:00:22	資料が、
0:00:25	出てきてますので、まずこの辺の説明家今の検討状況、
0:00:30	水位下降側ですね。
0:00:32	検討状況の説明をまず北海道電力からお願いします。
0:00:37	はい。北海道電力の松村です。本日、本日の面談よろしくお願ひいたします。
0:00:43	谷さんからありました津波のうち、水位下降側の検討状況について、まず説明させていただきたいと思ひます。説明は青木から行ひますよろしくお願ひいたします。
0:00:55	北海道電力の青木から説明させていただきます。
0:00:59	ワードタテの資料で検討状況についてご説明させていただきます。
0:01:04	まず一つ目のポチですが、追加コガはアノ評価については、以下の 1 ポチから、
0:01:10	3 ポチの内容で今資料化を進めているところであります。
0:01:14	また、こちらで一部追加の検討を発生しておりましてその検討は完了しております。
0:01:20	現状の状況としましては、今週末、9 月 29 日に資料、水位上昇側と水位下降側両方をそろえたものっていうものを、
0:01:30	のパワーポイントの資料で提出するところを考へているところになります。
0:01:34	内容について、1 ポチから説明させていただきます。
0:01:38	まず、下降側の評価の手法というところになります。
0:01:42	こちらプラント側の設計に合わせまして加古側の評価として、貯留堰を下回る時間というもので評価を行っていきます。
0:01:51	こちらの貯留堰を下回る時間につきましては、注釈で定義を書いておりまして、
0:01:56	これまでのヒアリングや面談の中で、保守性を考へた時間という言葉を使って説明してはりましたが、こちらのネーミングっていうところを、改めて、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:07	評価するっていう観点から中利益を下回る時間という名称に改めさせていただきます
0:02:12	評価の仕方自体は、これまでの保守性を考慮した時間と同様になっております
0:02:17	具体的な評価の仕方というところで二つの矢羽根で書いております
0:02:21	地震に伴う津波の上昇側の2羽と4は、というものがちより石と比べて十分に高いので、この2ハタ4はの間の引き波時を対象にシマ
0:02:31	でまたこの対象の引き波時のうち一時的な水位上昇を見込まない時間というものというふうに定義しております。
0:02:39	続きまして2ポチで貯留堰を下回る時間の最大ケースの選定方法について
0:02:45	一つ目のポチは、評価の前提になりますので飛ばさせていただきます二つ目のポチというところで、
0:02:52	貯留堰を下回る時間の最大ケースを選定するにあたっては、水位変動量、上昇側下降側両方含めて、
0:02:59	静変動が大きい波源が、水位が低下する時間も長くなるという一般的傾向を踏まえて、この水位変動量が大きい波源に対する組み合わせ評価を実施することで、概ね貯留堰を下回る時間が大きいケースが選定できると考えております
0:03:14	ここで概ねと言っているところについては後段の評価で妥当性を示すという観点でここでは概ねというところで記載を、
0:03:21	ており、
0:03:24	つきまして2ページをお願いいたします。
0:03:30	2ページ以降、ここからは今回追加になる内容になっております。3ポチ移送の変動が貯留堰を下回る時間に及ぼす影響の分
0:03:39	まず最初に課題を抽出しまして、指摘事項、前回の審査会合等の指摘事項との関連性について述べております
0:03:48	一つ目のポチですが、こちら水位上昇側の位相の変動を考慮した組み合わせ評価を別途上昇側の評価を目的としてやっております、その中から貯留堰を下回る時間の最大ケースを選定しております
0:04:01	ですから一方水位下降側に対して移送の変動による影響を確認できていないという状況もありまして、
0:04:08	この貯留堰を下回る時間の最大係数の妥当性を示すにあたっては、移送の変動に関する根拠というところが明確に示す必要があると考えております

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:18	こちらについては前回の審査会合における追加他の指摘事項、
0:04:22	とも関連合致しているものと考えております
0:04:26	具体的に※3 のところで指摘事項を書かせていただいております
0:04:30	そのうち二つ目のポチというところで、一層の変動を考慮する必要がないとする根拠。
0:04:35	について、位相の変動が低下時間の算出結果に影響しないという具体例で示すなど、
0:04:41	説明することと踏まえてこちらと課題が合致しているのかなと考えております。
0:04:47	それを踏まえた課題指摘事項に対する検討方針というところを(2)番になります
0:04:53	藤。
0:04:54	2章です。
0:04:55	選定しました貯留堰を下回る時間の最大ケースを対象に、位相の変動が貯留堰を下回る時間に及ぼす感度を分析いたします。
0:05:04	その感度の分析結果から、位相の変動が貯留堰を下回る時間に及ぼす影響がないと。
0:05:10	具体的な算出結果に影響しないというところを示すことで、組み合わせ後の貯留堰を下回る時間に対して、影響の大きい波源が選定できていることを確認すると。
0:05:20	いう方針になり
0:05:22	検討の方法になりますが、貯留堰を下回る時間の最大ケースを対象に、移送に直接影響を与える組み合わせの時間差
0:05:31	を頭の、
0:05:33	地震に伴う津波とかは白尾組み合わせの際の時間差のずれというものの変動を考慮しまして、水位時刻歴は形の比較から、移送の変動がこの貯留堰を下回る時間に及ぼす感度を分析していきます。
0:05:46	その具体的な方法というところで、組み合わせの時間差を±30秒させた場合の感度を分析しまして、
0:05:55	この貯留堰を下回る時間の定義にもなっております2ハタ4班の間の時間が概ね一定であるというところを確認いたします
0:06:02	なお、
0:06:03	30秒よりも30秒変動させた感度分析する結果から、この30日よりも大きく変動させた場合においても、この結論になります地震に伴う津波の2ハタ4羽の間の時間が概ね一定であること。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:17	確認できると考えております。
0:06:20	3 ページのところでは仮検討結果というところで、言葉で、方針に合わせた結果を書かせていただいております
0:06:28	こちら文章ですと説明わかりづらいというところで、
0:06:33	検討方針から検討結果までの流れをパワーポイントの方で今回抜粋して説明させていただきます
0:06:41	パワーポイントの資料の方をお願いいたします
0:06:50	2 ページの右側につきましては、
0:06:53	先ほどワードで説明した資料を説明したものになっております
0:06:57	こちらのパワーポイントの資料の中では、この(3)の緑枠で囲ったところ、
0:07:03	について特に説明を加えたものになっております。
0:07:07	3 ページをお願いいたします
0:07:10	課題を踏まえた検討方針というところで、
0:07:13	貯留堰を下回る時間の最大ケースを対象に、位相の変動が貯留堰を下回る時間に及ぼす感度を分析いたします。
0:07:21	こちらの下表のところに貯留堰を下回る時間の最大ケースを載せておりまして、
0:07:26	こちらについてはこれまでのヒアリング、面談で説明してきたものと同じケース。
0:07:31	同じ波源になっております。
0:07:33	最大値で言いますと、一番右側の防波堤の損傷を考慮した事件モデルの③の 863 秒。
0:07:40	というところになっており
0:07:42	この最大ケースに対して、移送の変動の影響を分析していくという方針になって
0:07:49	4 ページ目が検討の方法になります
0:07:54	こちらの左側のテキストにテキストについては先ほど説明したところになっておりまして、右側に検討のイメージ書いております
0:08:02	まず地震に伴う津波がありまして、その下段に陸上地すべりカワセらのは形を載せております
0:08:10	ここで、組み合わせるにあたっては地震に伴う津波から、
0:08:14	時間をおいて頭が重なってくるというところがありますので、
0:08:19	この川白のハケを左にシフトしたり右にシフトしたりしてソウノ変動の影響を見ていくというところをやっております。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:26	その具体的な変動幅っていうところで、現状±30秒の変動を考慮しております
0:08:34	また、下段の表のところ、健全地形モデルから③の地形モデルまでの、
0:08:40	最大ケースをそれぞれ書い
0:08:43	て中央の列で、貯留堰を下回る時間の最大ケースの波源を変えて、
0:08:48	こちらは、
0:08:49	先ほど説明した3ページの、
0:08:51	波源と同じものになっており、
0:08:54	ここで組み合わせの時間差のところを黄色ハッチングで書いておりましてこのパラメータを±30秒ずつ変動させて、
0:09:03	江藤組み合わせの解析を行って8Kの影響を見ていくと。
0:09:06	いうところを検討ゴコウになります。
0:09:09	それぞれの地形モデルごとの結果を5ページから8ページ。
0:09:13	にそれぞれ整理して、
0:09:16	5ページのところろが、健全地形モデルの結果になって、
0:09:23	こちら、九つのグラフ書いてありますが、中央が処理石の下の主巻の最大ケース。
0:09:29	になる時間差の条件で書いたものでして、上段が地震に伴う津波、中段が陸上地すべりカワセラ。
0:09:36	下段が組み合わせのドイツはババの結果を書き換えております
0:09:40	その結果地震津波で確認できた2羽と4は、
0:09:44	というところは、組み合わせの結果でも、2ハタ4は、というところが大きくその間で処理づけをした
0:09:49	時間が大きくなって
0:09:51	ところが確認
0:09:53	でまた左右に±30日を変動させた結果を載せておりまして、その30日変動させても、この傾向は変わらないというところを確認して、
0:10:05	その下段のところ結論を書いておりまして、
0:10:08	この組み合わせの時間差の変動を考慮することによって、
0:10:11	同一波動バー組み合わせのせい時刻08期は形に大きな違いは生じ
0:10:16	具体的には、
0:10:17	追加コガに対して影響の大きい形は、上昇側の2ハタ4は、
0:10:21	間に発生することは変わらない。
0:10:23	いうところで、ソウノエンキョウの移送の変動の影響が小さい

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:27	というふうに結論づけており、
0:10:30	また、正直下回る時間のデジタル値っていうところを、グラフ中の、ちょっと見づらいんですけど、
0:10:36	オレンジ色の文字で書いておりました、これが、
0:10:39	中央の貯留堰を下回るところの最大ケースのものが一番大きいというところがありまして、大きな影響はない。
0:10:46	0にして、
0:10:49	また、一番左下のところで米印書いておりました、部分的に、この下に凸のは形が、
0:10:56	天端のマイナス4メートルを下回っていない。
0:10:59	ちょっと、ぱっと見ですとわかりづらいんですけど一番左下は、
0:11:03	笠間、4メートル下回っていないのでそこが繋がっていないとかそういったところのイレギュラーはあるんですが、最大値の観点からは、この一番大きいケースが、
0:11:13	これをつなげた形で拾えているので問題はないというところを注釈で書いて
0:11:19	一方6ページ7ページ8ページと、地形モデル変えた結果で書いておりました、この結論に該当する2ハタ4ハラ間で最大になって、位相ずらしてもその大きな違いはないというところについては、共通した結果としてえられており
0:11:37	9ページが、これらの状況をまとめたものになっておりました、
0:11:42	口頭で説明したところを、改めて書いているところになっており
0:11:48	最後、
0:11:50	これまでの説明とはちょっとずれてくるんですけど10ページというところで、
0:11:54	これまでの面談ヒアリングの中で、地震に伴う津波の4羽がどういった波源かっていうところの説明がしきれてなかったところがありましたのでこちらを参考として掲載しております
0:12:07	上昇側の4羽についての、
0:12:10	津波の伝播状況をそれぞれ書いております。一番左上から右方向に、時系列が
0:12:17	ような見方になっており
0:12:19	まず一番左上のところで、
0:12:22	波源のところで水位が高くなりまして、日本海島縁部の1
0:12:26	ですね。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:27	こちらから伝播した津波が、積丹半島の北西部のところに到達していきます
0:12:34	②のところで積丹半島北西部において水位が1回低下しまして、その後下降側から上昇側に転じて、こちらが上昇側の余波の成分になっており、
0:12:45	そちらが発電所の方向であります泊発電所方向の方にどんどん伝播していきまして、
0:12:52	こちらが発電所のところに到達して、かつ、
0:12:55	それプラス岩内側からの反射はっていうところの成分を含めた
0:12:59	等、
0:13:02	上昇が一般にハーカー加えたような、
0:13:04	メカニズムのところで4、4羽のところは上昇していると。
0:13:08	メカニズムになっており
0:13:11	下段で、そこをもう少し詳しく書いたところで、上昇側の第2は、
0:13:17	東条ショウガンの第4は、については、伝播経路の違いによってそれぞれの発生時刻に
0:13:23	約20分、1200秒の差が発生しているものでして、波源位置を東西にずらした場合においても、この間の時間というのは大きな変化は生じない
0:13:32	というところを書いても
0:13:35	駆け足でしたが、説明は以上とさせていただきます
0:13:47	井谷です。
0:13:48	えっとねヒアリングじゃないので、
0:13:51	今こんなこと考えてますよっていうのを、
0:13:54	大きな話の
0:14:00	流れだけ確認したいんですけども、やっぱり何かねえ。
0:14:09	と、
0:14:14	何て言うのかなあ、最後の。
0:14:24	最後の結果をね、
0:14:27	ちょっと分析はいろいろこうなんか思うところもあるんですけど、
0:14:31	最後検討結果で、
0:14:36	このロジックをちょっともう1回こう、
0:14:41	なぜこれで、
0:14:43	大きい波源が大きい波源が大きい波源が選ばれて、大きめの波源が選ばれているという話なのか。
0:14:52	しっかりところ最大の波源が、これで選ばれているっていう話なのか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:14:59	ちょっともう1回この検討結果の話を、
0:15:04	してもらっていいです。
0:15:10	当北海道電力の青木です
0:15:13	モス
0:15:14	もう一度補足させていただきます。
0:15:17	まず、
0:15:18	ワードの資料の方の2ポチのところ、
0:15:22	調理時期を下回る時間の最大ケースの選定の仕方というところで、プロセスに該当す
0:15:28	ところになっており
0:15:29	こちらが上昇上昇下降を含めて水位変動量が大きいもの。
0:15:35	ていうのを検討していくことによって、時間に対しても厳しい波源が選べていくだろうって。
0:15:40	いうところの考えがありましてこの結果から最大ケースをまず引っ張って
0:15:46	ただし中で、
0:15:47	実際にソウノ変動っていうところについては、特にこれまで分析していなかったところもありまして、この結果からだけでは、最大ケースだって言い切るのは難しいというところがありまして、
0:16:00	その根拠を拡充するっていう観点から、
0:16:03	3ポチの位相の変動の影響っていうところで、
0:16:07	三次プラスマイナス具体的なプラスマイナス30秒。
0:16:11	組み合わせの時間差をずらしてそれでも影響がないっていうところを確認したと。
0:16:16	いう流れでして、
0:16:19	最終的には、最後の3ポチの移送の影響の分析というところで、確認終えて、
0:16:26	調理時期を下回る時間に対して一番厳しいんだっていうところがいえる。
0:16:29	そういった論理展開を考えている。
0:16:33	以上です。
0:16:37	はい、谷です。わかった分かったというか3ページの検討結果っていうのは、位相あんまり、
0:16:44	考えなくてもいいんだよ、上昇側移送の考慮したんだけども下降側は、こういった分析をしたら、ソウノ、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:54	理想、考慮する必要はないんですよっていうのを最後導きたいと、そういうことですかね。
0:17:03	北海道電力の青木です。
0:17:05	そういった認識でして、加古川について所障害については、PEEKとBが重なるので、磯について詳しく検討したんですけど、加古川については、位相の変動をずらしても、
0:17:16	もう今の最大ケースから変わることがないというところがあるので影響はないというふうにまとめております。以上です。
0:17:27	はい。
0:17:29	ネット、
0:17:32	わかりにくいんですけども、
0:17:37	そもそももう、そもそも上昇側は、何だっけ、単独D。
0:17:45	チャンピオンになるものと組み合わせたときにジャンプなるものがもうことごとく変わったので、
0:17:50	だから、
0:17:52	ただ単に上昇側、
0:17:55	等、
0:17:56	組み合わせるわけにはいかないよってそれはなぜなら磯が影響しているからだと。
0:18:02	いう話だったですよ。で、そもそもか下降側っていうのはそういうものがあつたのかなかつたのか、要するに上昇側と同じような課題があつたのかなかつたのかでいうと、
0:18:15	何かそのね、入口の部分とかが何か私これ見てて、
0:18:22	よくわからなくて、それはやっぱりあつた。
0:18:26	んですかね。す。
0:18:32	北海道電力の青木です。
0:18:35	藤は下の入れ替わりというところで、地震津波単独の検討における、
0:18:40	貯留堰を下回る時間の最大ケース。
0:18:43	が、組み合わせ、それを組み合わせ評価やった結果が、
0:18:47	組み合わせ評価の全体の中の最大ケースになってるかっていう意味だと、そこは必ずしも一致していないと。
0:18:53	いうところでそういった観点でいうと、波源の入れ替わりはあつたと、いうようなまとめになるかと考えており
0:19:01	以上で、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:03	書いてあります。でもあんまりなかったんじゃないんですかね上昇がほどなかったんじゃないかなとか思うんだけど、
0:19:10	すいません、今資料がないのであんまりこう細かい話をするつもりはないんですけれども、
0:19:16	それに対して、
0:19:18	なんかね 22 ページの課題及び指摘事項って、最初なんか読んだときは、
0:19:25	何か頭に入ったような気がしたんだけど。
0:19:29	最初の両括弧 1 の一つ目の丸なんですけど水位上昇側の位相の変動を考慮した組み合わせ評価より、
0:19:38	貯留堰を下回る時間の最大ケースを、
0:19:42	選定しているか。
0:19:48	追加コガに対しての位相変動による影響を確認できていない。
0:19:54	ていうのは、
0:19:56	上昇側の一層の変動を考慮した組み合わせ評価で、
0:20:01	下降側の最大ケースを選定しているんですけど。
0:20:09	結果そうなるっていう。
0:20:11	ことなんです。
0:20:13	北海道電力の青木です。
0:20:15	ちょっと水位上昇側のところの、こういった評価やってるかっていうところで言うと、
0:20:21	水位に着目した評価っていうところで地震津波の最大ケースを対象にした組み合わせ評価
0:20:27	というものと、江藤位相をずらした検討っていうところで、
0:20:31	衛藤。
0:20:32	上昇側の指摘事項として対応している磯野ずらした検討の二つが大きくあると思っています。
0:20:38	その上障害に対し位相ずらした検討の結果から、長井関を下回る時間の最大ケースが選ばれている、結果として選ばれてるってところが、事実としてありまして、そういったところで、
0:20:50	移送による影響があるのかわからないかっていうところがはっきりしてないってようなところが課題として挙げているところになっており、
0:20:57	以上です。
0:20:59	谷です。あれですね私結果とかをよく
0:21:04	見比べずにこの文章読んでしまってるから、多分、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:09	さっきの土肥とも合わせてなんですけれども、これ、あれですよだから、
0:21:15	下回る時間っていうのを最大ケースも、
0:21:21	組み合わせてみたんですけども、
0:21:24	結果、
0:21:25	それよりも、
0:21:27	水位上昇側の位相変動した組み合わせけ。
0:21:30	評価によって、
0:21:32	長いものが選ばれている。
0:21:34	ていうことであって、
0:21:37	だから、
0:21:39	こういう形評価より最大ケースを選定しているかっていうのは、
0:21:44	結果そうになっているかっていう意味。
0:21:48	なのが、何かそもそもこの
0:21:51	やり方としてこんなことをやっているがっていうふうにはぱぱっと読んだら、
0:21:56	取れてしまってさっきちょっと混乱したんですけども、
0:22:04	やっぱりだからここはあれですよ。
0:22:07	組み合わせ
0:22:09	なんか
0:22:11	組み合わせで移送の変動を考慮したものが最大になっているんですけども、でも結果なんか分析してみると位相なんて関係ないんですよって いう
0:22:21	何か一つの
0:22:23	たった2枚ほどのペーパーの中で、
0:22:26	うまくこう、
0:22:29	何て言うんだね、こうこう、ちゃんと伝えればわかるのかもしれないんですけども、
0:22:35	何か、3の両括弧1と両括弧4の関係が、私なんか、
0:22:41	うまく伝わってないような気が。
0:22:44	しますね。
0:22:50	当北海道電力の青木です。
0:22:53	端的に言うと、ソウノ変動の影響があるのかないのかっていうところが、その資料館の中でちょっと読み取りづらいついていうようなところかと思う。
0:23:04	具体的な(1)の方の入口のところでは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:07	一層の変動の影響があるような見え方になってるんですけども結論の検討結果の方見てくると、移送の変動の影響がない。
0:23:16	てきてその辺りがわかりづらいついていうところかと考えて
0:23:20	ちょっとここを丁寧に説明させていただきますと、選定プロセスの中で、
0:23:26	一層の変動を考慮、上昇。
0:23:29	失礼します。2 ページの(イ)3 ポチの(1)で説明したいところについては、
0:23:34	入口のきっかけになるところで、上昇側の位相の変動を考慮した評価。
0:23:40	から選ばれているので、
0:23:42	その最大ケースを選ぶところでは目にその変動の影響があったんですけど、その選んだ最終的な最大波源に対して、さらに、その辺どうずらしていくとどうなるかっていうところはもう、
0:23:56	(1)の上昇側の評価をやったときに、最大としてエラー、位相のずらした最大ケースを選んでいるので、そこでも影響がないっていうところが、
0:24:05	わかったというところを、
0:24:07	改めて言ってるところになります。ちょっと、
0:24:12	2 ページの一つ目のポチと結論っていうところをもう一度整理して、わかりやすくなるようなところを考え、
0:24:19	ます。
0:24:20	以上です。
0:24:27	はい。
0:24:29	谷です。
0:24:31	ちょっとねやっぱりこの文章だけをもってしてなかなかね、これで、この方針で、なるほどなって思えるかっていうとちょっとね私は
0:24:42	難しいところがあるんですけども。
0:24:45	あとはほら、
0:24:48	時間が、
0:24:49	これひょっとしたら前回の会合のコメントに共通しているかもしれないんですけど、時間はどのようにしてこう伸びるような
0:24:58	メカニズムなのかっていうのは多分把握されてると思うんですけども、第2はと第4版の間にこうあって、それに対して、
0:25:08	どういときに時間が延びていくんですとか、そういう分析っていうのも、今のこの検討方法とかでは、それは特に書いてないんですかね。
0:25:20	組み合わせることによって、どう、どういう。
0:25:23	状況、状況で、長くなるんですという、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:28	そういう説明というか分析というか、
0:25:32	その辺は資料化していったるんですかね。
0:25:37	確認させて。
0:25:38	北海道電力の青木です。
0:25:42	イメージの確認なんですが、パワーポイントの 8 ページ、こちらが一番保守性を考慮した時間が長くなるケース
0:25:50	になっておまして、こちらを例にちょっと、どういった
0:25:55	質問かというところを確認させてください。
0:25:58	一番上段 2 地震に伴う津波のは計ありまして、下段で組み合わせた結果を書いております。
0:26:06	聞かれている分析っていうところが、もうこの地震津波とカワセアノは系の、どういった重ね方をしたときに、
0:26:16	一番組み合わせの処理状況下時間が長くなるかっていうところ。
0:26:21	が
0:26:23	どこどこが重なる大きくなるかそういった分析という理解でしょうか。
0:26:31	うん。そういうところをですね
0:26:34	こういうふうにならって今までここは
0:26:38	4 メーター上回ってたんだけどそこが、加古川下の一派と重なることで、
0:26:45	重なることで
0:26:48	下がって、
0:26:50	地震に伴う
0:26:53	時間よりも、
0:26:55	の、この辺が伸びるんだとかですね。
0:26:58	そういう基本的なことをちょっと、
0:27:01	説明してもらった上で、
0:27:10	何か話した方が、
0:27:14	理解は進むんじゃないのかなっていうことではあるんですけど多分僕らはね、
0:27:20	この間の面談とかでも、
0:27:22	こういうことなんですよねって言ってはいますが、地震に伴う津波の
0:27:27	下がった時間の、
0:27:29	前か後にしかくっつかないですよと、マイク後にくっつくとしても、かわしだしてそんなに波長がこう長くないので、
0:27:41	くっつくとしても、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:42	下げ下がってる時間っていうのはそんなすごくなすごく長いわけじゃないんだよとか、
0:27:48	そういう
0:27:49	感覚を持ってるんですけれども、
0:27:52	そういうのを何か話ができるような、
0:27:56	資料通行。
0:28:00	分析というかこういうことなんですよって、加古川ガコウ時間が長くなるのはこういうことなんですよっていうような、
0:28:07	やってる方からアオキさんと書かれたらもう当たり前のことなのかもしれないですけど、そういう説明から入った方が、
0:28:14	何かを、
0:28:15	ポイントはここなんだねっていう、皆さんがこう理解しやすいんじゃないのかなっていうふうに思いますね。
0:28:24	そういう分析を今ここで何かこのペーパーで表してるわけじゃないって。
0:28:29	ということですね。
0:28:32	北海道電力の青木です
0:28:34	どういった組み合わせした時に大きくなるかっていうところの分析まで手を手が回ってないっていうところが、正直なところでして、そうじゃないですよ。どういった組み合わせよっていうか組み合わせることによって、
0:28:46	どういうふうに時間が延びていくんですよっていう、一般的なこの泊の特徴っていうのはどんなもんなんですよっていうような、そういうのが入口で、
0:28:58	あるべきなんじゃないのかなとかこう思っています。
0:29:15	もうだから第1と第2版の間の間の、ちょこちょこ高で出るやつなんかあれはもう無視してもいいわけでしょ。
0:29:23	だから、その1回下がったところから、
0:29:26	下がったところより前に、何かプラスされるか。
0:29:30	最後上がったところの後にプラスされるかしかないんですよ。
0:29:34	それが、こういうこう波と重なるんですよとか、そういう特徴の説明とかですかね。
0:29:44	そういう古藤なんかだとまずはずですね、そしたら、なんか、確かにこれ第2羽と第4はの間に、
0:29:53	重なって、
0:29:55	川白の短波分延びたりするのかなとか、そういうことはちょっとイメージをまずできるんですよねということなんですけれども。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:07	北海道電力の青木です
0:30:09	例えばパワーポイントの 8 ページ。
0:30:12	のところで言いますと、地震津波単独でいうと、
0:30:15	493 秒が処理でき下回る時間になっておりますが、左右のところ、同様に、加古川が重なると、
0:30:25	組み合わせで広がっていくってところろうの、
0:30:28	そこが分析ってところかなと思っており
0:30:32	ここについて、
0:30:34	江藤
0:30:36	わかる範囲を確認できてるんですけど、すべての波源とかそういったところでチェックできてないところもありますので、
0:30:44	一般的な考え方ってところでちょっと検討させていただきます
0:31:00	あとはねなんかねえ。
0:31:02	検討方法って書いてるんですけども、
0:31:12	この具体的にはって二つ目の丸なんですけれども、組み合わせ時間を動かしても、
0:31:18	地震に伴う津波の第 2 ハダ 4 羽の間の時間は概ね一定であることを確認するって書いてるけど、
0:31:27	なんかそんなの当たり前なんじゃないのかなっていう、やるまでもなくって、何でその組み合わせの時間差を変えると。
0:31:35	地震に伴う津波の第 2 はと第 2 はの第 4 班の間の時間が、
0:31:41	変わるかもしれないって思ってるのかとかいうのが、僕は読み違えてるのかもしれないんですけども。
0:31:47	むしろ、どんな津波でも、
0:31:52	第 2 は第 4 は、
0:31:56	時間。
0:31:57	一緒なんですよっていうのはもうその前段に説明してんですよね。
0:32:03	なんかね。
0:32:07	こここれをやって、
0:32:12	例えば 5 ページで、
0:32:15	5 ページで、
0:32:23	組み合わせてもう、
0:32:25	組み合わせたら一番下ですよ下下の段ですね、組み合わせても、
0:32:30	地震に伴う第 2 は、第 4 はが、
0:32:34	の時間は変わらないって。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:32:37	それは変わらんでしょうねって思うんですけど。
0:32:40	何か他の意味があるんですかね。
0:32:57	北海道電力の青木です。
0:32:59	頭にはと4羽の間で懲役の下回る時間でとってるんですけど、
0:33:05	素行の前提条件決めたところっていうのが、地震津波のは形を見て決めたところになってまして、それに対して組み合わせでも2ハタ4は絶対大きいのか。
0:33:16	さらにもっと言えば、位相ずらした場合にハタ4羽が大きいままなのか。
0:33:20	ていうところが今明確ではないというふうなところを課題ととらえてまして、そこを今回、
0:33:26	わかるような形で資料化したというふうを考えて
0:35:23	えっとですねとかですねそういう何か、
0:35:28	読んでて、これを説明できたらこういうことが、
0:35:33	解消するんだっていう、因果関係が、やっぱり今のこの文章、
0:35:39	を見てても、ピンとこなくて、資料を見たら、
0:35:43	わかるかなっていうとそう、そうでもない、きっと、いろいろ他にも考えてることがあって、資料化できれば、何か納得できるの。
0:35:55	がどうなのかわかんないんですけど、ちょっとこう伝えたいことはわかるような形で、今後、今後ですね整理していただきたらと思うんですけども。
0:36:06	ちょっと今日この中身をね、議論するような面談じゃないので、
0:36:13	後論理構成がわかるようにお願いしますということで、
0:36:17	お伝えしておきます。
0:36:19	よろしいですかね北海道電力の方から何かありましたら。
0:36:30	北海道電力の青木です。ちょっと論理構成についてまだ課題があるというところなので、見直しを検討したいと考えております。以上です。
0:36:39	単にその見直しをっていうふうなことを言ってるわけじゃなくて、今考えてることをまずは伝えるようにしてもらって、それが会合で、
0:36:49	議論できるような形にしてもらえたらなということでお願いします。
0:36:55	北海道電力のアオキですとちょっと言葉が正確ではなかったんでわかりやすくなるような形で検討させていただきます。以上です。
0:37:03	はい。お願いしますじゃあ特になければ、遠田の方以上にしたいと思えます。
0:37:08	どうもお疲れ様でした。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。